

＜株式会社エフエム東京 第382回放送番組審議会＞

1. 開催年月日:平成 23 年 10 月 4 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数7名(社外7名 社内0名)

◇出席予定委員(6名)

青池 慎一 委員長 渡辺 貞夫 委員
内館 牧子 委員 香山 リカ 委員
秋元 康 委員 西田 善太 委員

◇欠席委員(1名)

横森 美奈子 副委員長

◇社側出席者(10名)

富木田 代表取締役社長
唐島 専務取締役
黒坂 常務取締役
平 取締役営業局長
藤 取締役マルチメディア放送事業本部長
長澤 常勤監査役
小林 執行役員編成制作局長
延江 編成制作局局次長 兼 番組制作部長
森田 編成制作局局次長 兼 編成部長
原田 番組制作部専任部長(オブザーバー)

◇社側欠席者(1名)

石井 常務取締役

【事務担当 小林放送番組審議会事務局長】

4. 議題:

番組試聴 「ゆうちょ LETTER for LINKS」(ダイジェスト版) 約 20 分
2011 年 9 月 18 日(日) 15:00～15:30 放送

《議事内容》

議題1:最近の活動について

◎8月聴取率調査結果について

2011年8月度の聴取率調査結果が9月21日に発表されました(調査期間8月22日～8月28日)。メインターゲットであるM1F1層(20～34歳男女)、12～59歳男女個人全体ともに前回同率で、NHK、中波を含めた在京全局中2位という結果でした。また、2月、4月、6月の調査に引き続き、男女12～59歳のリーチについては、全局中首位となりました。また、男女15～24歳、男女10代、中学生、高校生、大学生という若年層の聴取率はいずれも首位となっており、若者に強いTOKYO FMを印象付ける結果となりました。

ラジオ局全般については、4月、6月調査に続き全局平均聴取率合算値(セツツ・イン・ユース)が上昇し、震災以降のラジオメディアへの信頼感が継続していることが証明されました。

◎アース&ヒューマンコンシャス ライブ 2011 supported by DUNLOP

TOKYO FMとJFN38局は、「アースコンシャス～地球を愛し、感じる心～」のステーション理念に基づき、9月6日、東京国際フォーラムにて「アース&ヒューマンコンシャス ライブ 2011」(出演:今井美樹、植村花菜、ゴスペラーズ、藤井フミヤ)を実施致しました。

今年は、「アースデー・コンサート」から「アースコンシャス ライブ」と呼称を一新し、会場も武道館から東京国際フォーラムに移し4月22日のアースデーに実施予定でしたが、震災の影響により、やむなく9月6日に日程を延期いたしました。そして、もうひとつのステーションの理念である「ヒューマンコンシャス ～生命(いのち)を愛し、つながる心～」も同時に掲げ、タイトルを「アース&ヒューマンコンシャスライブ 2011」とし、地球環境保護だけでなく被災地支援も同時に訴求する形での開催となりました。出演者たちが「今、音楽家として出来ること」を信じ、被災地の方々の心に想いを寄せ、「命の尊さや心と心のつながりの大切さ」を気持ちに込めて歌い上げ、イベントの最後には、出演者全員で「上を向いて歩こう」を合唱。一夜限りのスペシャルライブとなりました。放送は、国内JFN38局の生中継の他、中国語、韓国語、英語、フランス語、スペイン語の5ヶ国語で、世界37の国と地域、82の放送局に向け発信いたしました。

◎第1回 NHK・民放連共同ラジオキャンペーン「はじめまして、ラジオです。」

NHK と民放連による、10 代の若者を対象とする初の共同ラジオキャンペーン「はじめまして、ラジオです。」が10月2日(日)に渋谷で開催されました。

このキャンペーンは、NHK と民放連ラジオ委員会が、今後の音声メディアの将来に関する共同作業の一環として、ラジオを聴いたことのない若者、そしてラジオの存在すら知らない若者にラジオの存在をアピールすることを主眼に、初めて NHK と民放ラジオ在京5社(TBSラジオ、文化放送、ニッポン放送、TOKYO FM、J-WAVE)が協力して行った一大キャンペーンです。

当日は、NHK メイン会場、渋谷マルイシティ前、渋谷パルコ前に特設ステージを設け、渋谷の街全体を巻き込んでの番組公開収録・生放送イベントを実施しました。

各会場で行われた公開イベントには、各局パーソナリティーの他、AKB48、オードリー、flumpool ら豪華ゲストが出演。当社は、『やまだひさしのラジアンリミテッドF』の公開録音を行ったのに加え、『SCHOOL OF LOCK!』が、同キャンペーンのテーマソングを手がけたロックバンド「SEKAI NO OWARI」とのライブイベントを開催し、会場を大いに盛り上げました。

各会場累計で、多くの若者たちを含む12,000人の観客が集まりました。

◎V-Low マルチメディア放送の今後のスケジュール

当社は、アナログテレビが停波した後の VHF 帯域を使用して、2013 年秋頃のスタートが予定されている V-Low(90-108MHz)放送の開発に取り組んでおります。去る3月11日に東日本大震災が発生したことにより、総務省による制度整備は暫し中断しておりましたが、7月24日のアナログテレビ停波を受け、再び準備が進み始めました。8月から9月にかけては、年初の総務省による調査に対し参入希望を提出した企業へのヒアリング(公式・非公開)が行われました。いずれ、この結果公表も含めた、V-Low 放送のスケジュールや制度発表等がされるものと期待されております。

当社は2009年秋に、全国でブロックごとに6社の企画会社を作りました。その6社のうち、「九州・沖縄マルチメディア放送株式会社」は、当社が保有している福岡ユビキタス特区の実験放送設備を買い受けて、「日本初の V-Low 帯での先行実験放送」を全国に先駆けて、年内にもスタートする方向で準備を続けております。

さらに当社は、東日本大震災を機に地域別の安心安全情報を提供するメディアが求められる中、市町村単位の「新型コミュニティ放送サービス」を V-Low 放送制度に組み込んで、防災無線の補完に使うことが適当である、と総務省に提案しております。その検証のための実験実施についても、兵庫県加古川市など、複数の地方自治体と研究を始めました。ここでの成果を本放送にも活かしていく予定です。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- V-Low について、ラジオ研究会で盛んに地震の話をしていたら本当に起こってしまった、という皮肉な結果だったと思うが、変な言い方になるが、これをチャンスに出来ているのか？ 総務省側が力を入れ始めているのか？
 - 防災に力を入れて早く公共的使命を果たすべきである、という方向になっている。地域活性化＝コミュニティを、商用の放送が整備された後にやるのではなく、最初からやろう、ということになったのは大きな転換。しかも1日も早く先行で実験をやろう、というスタンスになっている。
- V-Low の言葉の意味は？
 - VはVHF帯のV。アナログテレビが使っていたVHF帯が更地になったところを再利用するわけだが、1チャンネルから3チャンネルという低い周波数を利用するので「Low」と言っている。V-Highでは、NTTドコモとフジテレビが中心になって、有料の携帯用動画チャンネルを作る予定。
- NHKは「あまねく放送する」使命があるので、デジタルラジオでは、山間部等へのアンテナ設置をNHKにやってもらうという動きがあったが、どうなったのか？
 - NHKの参加がまだ確定していない。

- 8月の聴取率調査では全局中2位ということだが、1位はどこか？
 - 1位はJ-WAVE。当社はリーチは良いが、継続聴取が課題となっている。
- いわゆる「つけっぱなし層」がJ-WAVEに多いということか？
 - 特にいわゆるスモールオフィスでその傾向が強い。
 - 1週間に1500分以上ラジオ聴く人をヘビーリスナーと呼ぶが、J-WAVEは10人、当社は5人。これが聴取時間の差となって現れている。ずっと聞いていられる放送を目指して改善をすすめている。

- 第1回NHK・民放連共同ラジオキャンペーンは面白い取り組みだと思うが継続していくのか？
 - 来年は大阪でやることを発表している。
- メディアとしてのラジオの地位は日本は低い。ラジオの価値を高めるキャンペーンが必要。ぜひ継続的にやってほしい。

議題2:番組試聴

【番組名】 「ゆうちょ LETTER for LINKS」(ダイジェスト版 約20分)
番組ナビゲーター:羽田美智子

【放送日時】 2011年9月18(日) 15:00~15:30 放送 全国38局ネット

【番組概要】

「LETTER for LINKS」のテーマは「絆」です。

人には、「この人がいたから今の自分がある」、「あのときにこの一言を言ってもらったから、一歩を踏み出すことができた」など、人生の中でかけがえのない人物とのエピソードと、出会いのストーリーがあります。

この番組では毎週一人の「絆ストーリー」を、女優・羽田美智子の朗読でお送りしています。ある人物の出会いのストーリーを紹介しながら、そこにある絆をひもとき、そこにある想いをリスナーのみなさんと共有していきます。

お聴きいただくのは、タレント恵俊章さんのストーリーを紹介した放送です。芸能界に入って恵さんが迷い悩んでいた頃にアドバイスをもらった、藤村俊二さんのストーリーです。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 「LETTER for LINKS」ということで、最初は「手紙」と思って聞いていたが、羽田さんのナレーションが誰かに向けたものではなく独白だった。このまま終わると怖いな、と思っていたら、最後、恵さんのコメントがあって安心した。おひょいさん(藤村俊二)のことを知らない人のために、もう少し説明を深くしたほうがいいのか? 恵さんのことは主婦層は当然知っていると思うが、羽田さんが読む時には、もう少し彼の人となりや説明してからの悩みでないかわりにくいのではないかと疑問だった。悩んでいた頃の曲が流れているわけでもない。最後の恵さんの独白は「手紙」とは言えない。感謝を述べたりメッセージを伝えるのが「手紙」だと思うので、ちょっと消化不良だった。もっとふつうの口調で喋ってもらえればいいのに、留守番電話に吹き込んだメッセージのように聞こえた。

- 最初は、登場人物に関心があるリスナーでないと、シーンを理解しにくいだろう、と思いながら聞いていたが、途中から、それはあまり重要なことではない、と思えてきた。正確に伝えるのは限界がある。やはり人の話は、顔が見えないと、文字や声だけでは理解が難しい。テレビなら映像やテロップで2人の関係性や番組のテーマがクリアになるが、ラジオには限界がある。だからこそ、それを逆手にとって、日曜の午後のけだるい時間に、あまり強くメッセージ性を出し過ぎないで、リスナーとゆるくつながる、というのもアリなのではないか。
きちんとメッセージを伝えるという点ではテレビにかなわない部分があるので、ラジオだからこそ狙えることを見つけてもらいたい。

- ゆるいし、ぬるいし、うすい。今の人は「薄まったもの」を好まないと思う。日曜のこの時間、つけっぱなしのラジオから流れてくるならいいが、わざわざこの番組めがけてスイッチを入れることはない。
エピソードが人生観が変わるほどのものでもないし、藤村さんとの絆の強さもない。身内の話になるが、ある大物のお笑いタレントがいつぱいいつぱいになって居なくなったことがある。その時、彼は、むかし家族と住んでいた四畳半一間のアパートに行って「ここからスタートしたんだな」という思いで、そのアパートを一晩中見ていたという。その話を聞いて涙が出た。今は大物になって、嫌な奴の代表みたいに言われているヤツにも実はそんなエピソードがある、ということなら、人に話したくなる。
他の委員も言っているように「絆」をうたっている番組の割に、絆が薄い。そこに人に話したくなるようなエピソードが無いのが残念だった。

- 行き当たりばったりの構成だと思った。本人にとっては重要な一言でも、他人が聞くと、たいていつまらないことが多い。今回はその典型だと思う。
他の放送回を聞かないとわからないが、他もこのゆるい構成だったら、ずっと聞くのは大変。そのゆるさの証拠として、間に音楽が入るが、この音楽が良いほど、前を全部忘れてしまう。30分にしては、物語部分が薄くてゆるい。
もし、私を変えた一言が、ナポレオンや板垣退助だったらどうするのか？
 - 生きている人に限らず、亡くなった方への手紙だったこともある。たとえば夜回り先生の水谷修さんの場合は、20年前に自分が言った一言が冷たかったから自殺してしまったマサフミ君へのメッセージだった。
 - 実は当初は、その夜回り先生の放送回をお聴かせするつもりだったが、内容が重すぎると判断し、「自分が決めたことなんだから、間違いがあると思え」という言葉が心に残ったので、恵さんの放送回を選んだ。

- いま流行の、うんざりするぐらいお腹いっぱい「絆」というテーマにくっつけすぎているのではないか？どこに行っても絆。絆。薄い絆までも「絆」でくっつけてしまっている。「自分を変えたひとこと」「自分を楽にしてくれたひとこと」ぐらいでいいのでは。

- 番組のテーマはいいと思う。亡くなった方でも、歴史上の人物でもいいだろうし、もっとやりやすくなると思う。先ほどから、ゆるい、うすい、と言われているが、そのものずばりで、退屈だし、面白くない。話の後に急に音楽になるので、話のはぐらかされてしまう。しかも退屈な音楽。こういうテーマだったらもっと話があってもいいと思う。あとは他の委員とほぼ同じ意見である。とにかく退屈だった。

- うすい、という表現がびったり。「LETTER for LINKS」というタイトルで期待感が高まってしまったが、30分もたせるほどのストーリーがあったのか？音楽が素晴らしいからそちらに惹かれて、何の番組だったか忘れてしまう。本来なら、ストーリーが主役で、音楽が背景だったはずなのに、逆になってしまった。しかもストーリーと断絶してしまっている。30分を構成するストーリーを作り得なかったのではないか。他の放送回を聴いていないので一概に言えないが、今回はそういう意味で物足りなかった。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放 送：番組「JOGLIS RUN GIRLS SUNDAY」
10月30日（日）5:00～7:30 放送
- ② 書 面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会 11月8日（火）に開催することを決めた。